

第26回 千城台地区学校適正配置地元代表協議会「学校保護者代表分科会」 議事要旨

1 日 時 平成26年10月1日(水) 19時00分～20時50分

2 場 所 千城台公民館 2階ホール

3 出席者

(1) 委 員 10人 *欠席 0人

(2) 事務局 4人 *教育委員会 企画課 大崎課長、伊原統括管理主事、小口主査、望月主査補

(3) 傍聴者 9人

4 報告・議題

(1) 【報告1】 前回協議会の概要について

(2) 【報告2】 前回協議会以降の動きについて

(3) 【議題1】 千城台地区の小・中学校の適正配置について

(4) 【議題2】 次回開催日時・場所

5 会議資料

(1) 資料1： 地元代表協議会における主な協議概要

(2) 資料2： 協議の進め方

(3) 資料3： 平成26年度 千城台地区小学校に在籍する児童の居住分布状況

6 議事の概要

(1) 【報告1】 地元代表協議会における主な協議概要

事務局が、前回の協議会の協議結果について説明した。

(2) 【報告2】 前回協議会以降の動きについて

事務局が、資料は前回から変更がないことを説明した後、話し合い等をもった団体から、報告が行われた。特に、南中の保護者の意見として、中学校の統合に賛成であるとの報告がなされた。

(3) 【議題1】 千城台地区の小・中学校の適正配置について

事務局が資料3「平成26年度 千城台地区小学校に在籍する児童の居住分布状況」について説明を行った後、特に中学校の統合の時期から協議を行った。その結果、本日出された意見を再度もちかえり、中学校統合について時期や統合場所等を含めて、できるだけ具体的な考えを各団体でまとめ、次回も分科会を開催して継続協議とすることとした。

(4) 【議題2】 次回開催日時・場所について

次回協議会も分科会とし、日時は「11月26日(水) 19:00～」で仮設定し、場所は千城台公民館とした。また、今月末までに各協議委員の動向を確認した後、日時の最終判断をすることとした。

7 発言要旨

(1) 会長挨拶 (氏家会長)

本日は中学校統合の是非という重要な議題であるので、協議委員が全員集まるまで開始時間を遅らせたことについては、ご了解いただきたい。今までの経緯を確認すると、昨年4月に「地

元代表協議会だより」で、千城台地区全住民に、A案とB案に絞られた具体的な進行状況を伝えた。A案（3小2中）は町全体からみた学校配置という視点から、特に実行性を考えて設定され、どちらかという自治会代表が現実的な意見として推していた。B案（2小1中）は学校の適正化、活性化という視点から恒久的な対応が可能ということで設定され、どちらかという小学校保護者代表が強く推していた。それぞれのメリット・デメリットを明らかにしながら検討してきたが、なかなかまとまらず、協議に時間がかかっている。これは、この協議会が全員の合意を前提としているからであり、協議会の合意はすなわち全住民が合意したことを示す。A案に比べてB案は実行性をさらに高める必要があったので、まずは中学校統合について先行して議論することとした。南中と西中両校の保護者及び生徒全員にアンケート調査をしたところ、約7割が中学校統合に反対していることがわかった。協議会としては、中学校統合の必要性はあるが、現実的に統合をすぐに行うことは難しいということで大筋合意を図ろうとしたが、結論に至らなかった。その後、統合の時期や統合の条件について、小中保護者代表同士で集中的に話し合い、一定の方向性を見出すために分科会を開催することになった。一方、自治会代表は、前回の協議会で全体の方針を明確に示した。A案を支持するが、B案の実行性が検証できるのであれば柔軟に対応するというものである。そこで、本日の分科会では、B案の実行性を検証し、中学校の統合について協議しながら、時間があれば小学校統合についても議論を深めてほしい。

(2) 報 告

報告(1) 前回協議会の概要について

〈山崎議長〉 前回協議会の概要について、事務局から報告をお願いします。

〈事務局〉 資料1・2をご覧ください。前回協議会の協議結果について簡単に説明する。

〈第25回協議会〉

○中学校統合の必要性は合意されているが、「統合時期については当分見送る」ことについての合意には至っていない。「中学校の統合時期」について、継続協議になっている。また、協議を迅速かつ具体的に進めるために、正副会長、学校保護者代表及び事務局による分科会として開催し、意見がまとまった際に全体会で協議を行っていくことで合意が得られた。

〈山崎議長〉 ただ今の報告で、質問がある方はお願いします。

〈一同〉 特になし

報告(2) 前回協議会以降の動きについて

〈山崎議長〉 前回協議会以降の動きについて、事務局から報告をお願いします。

〈事務局〉 前回以降、事務局としての説明会等は行っていない。

〈山崎議長〉 前回以降で、話し合い等をもたれた団体があれば、報告を簡潔にお願いします。

〈岡委員〉 北小では、8/26に説明・検討会を開催、事前に学年ごとにヒアリングを行い89名の意見を吸い上げた。9/19に統合に関する全校アンケートを実施した。

〈大和久委員〉 西小では、報告会等は特に行っていないが、今までと同様に西小PTAの意見を協議会で訴え続けることを確認している。

〈時松委員〉 東小では、9/4の本部会議、9/11の運営会議で、前回協議会の内容を報告した。

〈栗山委員〉 南小では、9/6の常任委員会で報告をした。

〈鈴木委員〉 旭小では、9/5の本部会、9/12の理事会で、前回協議会の内容を報告した。新し

い学校に何を求めるかをテーマにディスカッションを行った。

- 〈千ヶ崎委員〉 西中では、9/2の運営委員会で、「北小や西小の意見を重視してあげてほしい」という意見が出された。
- 〈笹川委員〉 南中では、9/10の本部会理事会で、前回本部会理事会で実施したアンケートをもとに協議した結果、「中学校統合に賛成する」という意見でまとまった。その旨を、南中だより（PTAだより）に掲載した。
- 〈山崎議長〉 前回以降の動きについて、質問がある方は願います。
- 〈氏家会長〉 北小と南中の報告について、もう少し詳しく教えてほしい。
- 〈岡委員〉 8月に行った1回目のアンケートでは、A案とB案のどちらがよいか、中学校統合についてどう思うかという記述式の質問にした。その結果に基づき、9/19に行った2回目のアンケートでは、統合の是非、問題点など具体的な質問をした。回収率は88.5%であった。
- 〈笹川委員〉 南中PTAとしては、昨年度までは中学校統合に反対の立場をとってきた。しかし、今年度は、保護者の1/3が入れ変わり、統合賛成が増えてきた。そこで、理事会で協議した結果、統合賛成の立場で協議会に参加することで意見がまとまり、その方針を南中だよりに掲載した。その後、その方針に対する反対意見は聞いていないので、保護者は理解していただいていると考えている。
- 〈岡委員〉 南中で前回実施した統合に関するアンケートは、PTA全体が対象だったか。それとも役員のみを対象だったか。今回はどうだったのか。
- 〈笹川委員〉 前はPTA全体が対象であった。今回は、役員だけの協議である。全体にアンケートをとる予定はない。

(3) 協 議

議題(1) 千城台地区小・中学校の適正配置について

- 〈山崎議長〉 まず、事務局から説明をお願いします。
- 〈事務局〉 報告(1)のとおり、前回の協議会では、中学校統合の必要性は合意されているが、「統合時期については当分見送る」ということについての合意には至っていない。これまでの協議結果と、各学校で話し合われた報告を踏まえて、今回、中学校の統合について前回からの協議を継続することになる。資料3は新たに用意したものである。前回の協議で小学校への通学距離の問題が出されたことを受けて、例年、資料として提示している「千城台地区の小学生の通学距離と人数」がわかる資料を作成するよう会長から要望を受け、用意した。
- ・児童数は地区によりわずかな増減はあるが、特に昨年と比べて大きく変動した地区はない。
 - ・図の下に各学校間の距離、各地点から小学校までの距離の表も掲載しているが、過去の表と同じである。
 - ・中学校の統合についてから協議を始めることになるため、協議の進行上、必要が出た場合には活用願いたい。
- 〈山崎議長〉 それでは、「小・中学校の適正配置」について、特に中学校の統合の時期から協議を行う。前回の協議では、「中学校の統合時期についての意見」としては、主に次のような意見が出されている。
- ・統合時期がいつになるかわからないという案は反対である。

- ・ 中学保護者のアンケートは尊重するが、「学年2学級になるまで待つ」という案だけでなく、「今の中学生が卒業後に統合する」というのも一案であろう。
- ・ 小中連携を柱として中学校の統合を考えるべき。
- ・ 小中学校と自治会の意見の折衷案として「3小1中」として、「平成30年度に中学統合」という案もあるのではないかと。
- ・ 中学を統合する時期を決めるのであれば、中学保護者が納得のいく説明が必要である。

ただ今の説明を踏まえて、ご意見・ご質問をお願いします。

- 〈時松委員〉 小学校で統合を経験し、中学校で再び統合を経験することは、子どもにとって負担が大きい。統合を2度経験しないケースはどのような場合が考えられるのか。
- 〈事務局〉 次の場合は2度経験しない。
- ・ 中学校統合が小学校統合よりも先に行われる。
 - ・ 小学校統合と中学校統合が同年度に行われる。
 - ・ 小学校統合の翌年度に中学校が統合する。(小6で統合を経験した児童は、翌年度の統合校中学校開校時に入学するが、統合するための交流活動などの統合に係る準備はしないため、統合経験に含めていないため。)
 - ・ 小学校統合の8年後に中学校が統合する。(小2で統合経験をした児童は、8年後には中学を卒業しているため)
- 〈時松委員〉 南中の以前のアンケートによると、「在学中の生徒が卒業したら統合してもよい」という保護者の意見が多かったように聞いていたが、今回の南中の意見は以前と変わったということか。
- 〈笹川委員〉 そこまでは確認していないが、自分の子どもが卒業したら統合してもよいと思う親は多いだろう。
- 〈千ヶ崎委員〉 西中では、現在子どもが在学中の保護者は、統合について強く意見する人はあまり多くない。また、中学生の弟や妹が小学校にいる保護者は、「子どもが入学してからの統合は避けたい」という個人的な意見が多く、それは西中全体の意見とは言えない。
- 〈山崎議長〉 今回の南中の意見は保護者だけの意見であり、生徒はどのような意見をもっているのか。
- 〈笹川委員〉 再びアンケートをとっても、意見がまとまらないだろう。南中のPTA理事会の話し合いでは、「小学校の保護者が望んでいるのならば中学校が統合してもよい」「協議会の決定にまかせる」「どちらでもよい」という意見があった。協議会として全体にアンケートを再度とるべきだということであれば、南中だけではなく、西中でも同様のアンケートをとった方がよい。
- 〈時松委員〉 東小のアンケートでは、以前は「中学校統合に賛成」という意見が多かった。在校生が卒業してから統合すればよいと解釈している。
- 〈千ヶ崎委員〉 西中に入学してくる小学生のアンケート結果を重視すべきだと思う。西中でアンケートをとってもあまり意見が出ないように思われる。
- 〈笹川委員〉 全校アンケートを今後実施するならば、小中学校すべて同じ内容のアンケートをとるべきだと思う。
- 〈山崎議長〉 前回の協議会では、中学校統合について「平成30年になったら・・・」「学年2学級になったら・・・」などの意見が出たが、南中としては、その点はどのように考えるか。
- 〈笹川委員〉 統合時期は、「早い方がよい」「今いる生徒が卒業する平成30年に」という意見がある。小学校に子どもがいる親はすぐやってほしいという意見もあった。

- 〈岡委員〉 南中は、昨年度のアンケートで在校生の7割が反対だったと思う。自治会は前回協議会で、A案に賛成だがPTAの意見を尊重するという方針を出した。南中も、いろいろな意見を踏まえた上で、今年度の意見として、「中学校の統合には賛成だが、小学校の意見を尊重する」ということでよいか。現1年生も、仮に来年または再来年に統合があるとしても賛成していると考えてよいのか。
- 〈笹川委員〉 そのように考えてよい。最終的にはこの協議会の方針にまかせるということである。
- 〈鈴木委員〉 中学校統合の方向で協議が進んでいるので、統合年度を先に決めて、それにむけて前向きに協議した方がわかりやすい。
- 〈大和久委員〉 今までの議論の折衷案として考えれば、平成30年度または31年度に統合するということがよい。小中連携教育を柱にした新設校の素案作りにも十分な時間をかけることができる。
- 〈山崎委員〉 中学校を統合するための説得力のある理由をいくつか示す必要がある。
- 〈笹川委員〉 例えば、南中は毎年、先生が入れ変わり、新しい先生の割合が多くなってしまう。また、部活動指導において、その種目が専門ではない顧問が多くいるのが現状である。その他にも、子どものことを第一に考えると統合した方がよい理由がいくつもある。
- 〈千ヶ崎委員〉 中学校統合について、理由をはっきりと示すための説明会を実施した方がよい。
- 〈氏家会長〉 協議会としても、中学校統合は必要であることには合意している。それをいつ実施するかという点について協議している。時期設定がテーマとなっている。南中の意見が昨年と比べてかなり変わったのはなぜか。統合時期については、「すぐに統合したい」のか、「様子を見て統合したい」のか。また、南中だよりでは、保護者全体にどのように説明したのか。また、西中や北小の立場はどうか。
- 〈笹川委員〉 「昨年までは中学校統合について反対の立場をとっていたが、今年度の協議会からは、統合に賛成の立場をとり、最終的には協議会の方針に従う」という内容を南中だよりに載せた。統合の時期などについては、明記していない。
- 〈千ヶ崎委員〉 西中は、中学校統合についての今年度の立場がまだはっきりしていない。
- 〈岡委員〉 北小のアンケートの集計では、大まかな結果として、「すぐに統合したい」が2割弱、「いずれ統合したい」が2割強、「統合しなくてよい」が6割程度である。統合賛成の理由は、部活動や運動会等の行事の活性化というものがあつた。「統合しなくてよい」という意見の理由は、「学年3学級が当分続くので、特に問題がないのならば現状でよい」「学年2学級になったら統合を検討すればよい」というものがあつた。
- 〈笹川委員〉 北小は、「統合反対」が多いということで、昨年度と意見が変わったということか。
- 〈岡委員〉 北小の現状としては、そのような結果が出たということである。
- 〈大和久委員〉 今までの協議会の中で、適正配置は必要(賛成)、小学校の統合は必要(賛成)と確認されている流れに対し、今年度より新たなアンケートにおいて、統合の是非を問う内容は議論を後戻りさせてしまうのではないか。
- 〈氏家会長〉 今年度のアンケートについて協議しているのは、中学校統合の議論を後戻りさせているわけではなく、様々な情報を出し合って、現在の状況を的確に把握するためである。
- 〈時松委員〉 中学校統合を前提に進めてきた今までの議論を大切にすべきである。小学校は喫緊の問題として危機感をもっている。中学校はすぐにといいわけではないが、いずれ統合した方がよいというところでは合意している。それならば、2回の統合を経験させないという点からも、小学校統合後、8年後に中学校統合すると決めたほうがよい。
- 〈山崎議長〉 小中連携教育の話も出ているので、事務局の見解を聞きたい。

- 〈事務局〉 小中連携・小中一貫教育には確固たる定義はなく、様々な方法やスタイルで実施することができる。例えば、実際に現在、小中一貫教育を実施している学校も、文部科学省の9月の調査では、施設一体型が13%、施設隣接型が約5%、施設分離型が78%と様々なスタイルがあり、それぞれに一長一短がある。
- また、千葉市では現在、千葉市版小中一貫教育標準カリキュラムの検証作業を進めるとともに、新宿小分教室における取組を通して小中連携や小中一貫教育のやり方や課題を検証している段階であり、国の動向を踏まえながら次のステップに向けた検討協議をしている最中である。
- 統合校がどのような配置になっても小中連携・小中一貫教育はできるので、協議会の中で、「小中連携・小中一貫教育を実施してほしい」という要望をいただくことはよいと思う。しかし、特定のスタイルや校舎配置で、小中連携や一貫教育を前提とした統合や、統合場所を決定していくためには、千城台地区の子どもにとって、そのスタイルが本当に適しているかどうかの検討と検証が必要であり、かなりの時間を要することになる。したがって、統合協議と特定の小中連携・一貫教育を同時に考えていくことは難しいと思われる。
- 〈氏家会長〉 国では、小中一貫校を制度化する動きが出ているが、千葉市としても制度化することになるのか。そうであれば、千城台地区の学校適正配置についても、時代の先見性を見極めて、議論を進めていく必要がある。
- 〈事務局〉 小中一貫教育校は、今までは教育課程特例校として設立されている。しかし、地域の実状に合わせて、小中一貫教育校を強く求めているのであれば、学校教育法の中で認めていこうという動きが出てきている段階である。ただし、すべての学校が小中一貫教育校を目指すということではない。中1ギャップの解消や学力向上など成果が出ているという報告もあり、今後、小中一貫教育校が増える可能性があるが、小中一貫教育校を制度化するには、教職員免許法等の問題もあり、条件整備を整えるため、ある程度の時間が必要である。小中連携教育に関しては、法の枠にとらわれているわけではないので、現状でも様々な方法で行われているが、さらに推進するための手立ては必要であろう。千城台地区の偏った学校配置の中で、小中連携・小中一貫教育をただちに進めていくには難しい面もある。地域の強い要望があればさらに検討していきたい。
- 〈大和久委員〉 そうであれば、先ほども言ったように、小中連携・小中一貫教育について、千城台地区として強く提案し、時間をかけて素案作りをしていけばよい。
- 〈氏家会長〉 9年間を見通した教育という理念で小中一貫教育を考えると、千城台地区に小中一貫教育という柱を取り入れることは適切であると考えてよい。
- 〈大和久委員〉 中学校統合に対して説得力のある説明をするためには、小中連携教育という大きな柱を取り入れることは必要である。協議会でも合意している。1中なのか2中なのかという議論よりも、小中連携教育をやりやすくするにはどのような組み合わせがよいのかという視点で話し合えるとよい。
- 〈氏家会長〉 今の段階ではまだ、千城台地区の子どもたちにとって、小中一貫校にすることが極めて適切であるという確信をもつことはできない。
- 〈事務局〉 小中一貫教育に関して、96%の学校で成果があると報告されているが、逆に76%の学校で課題があることも報告がされている。中1ギャップ解消等の成果は確かにあるが、教職員の多忙化や学習の節目などの点で課題がある。千葉市では、それらの課題も含めて検討している段階である。

- 〈大和久委員〉 小中一貫教育はハードルが高いので、まずは小中連携教育を推進するという方針を掲げてきた。小中一貫教育には課題も多いという前提も含めて、小中連携教育が進んできたときに、小中一貫教育へとステップアップしていくという考えである。
- 〈事務局〉 小中連携教育や小中一貫教育は、3小2中でも2小1中でも、いろいろな形態に合わせて進めることができる。ただし、子どもや教員の動きを考えると、小学校と中学校が近い方がやりやすい。今後、小中一貫校が認められれば、そのような移動がなくなるので、さらにやりやすくなるといえる。しかし、まずは学校適正配置の目的をしっかりと考えて協議を進めていってほしい。
- 〈栗山委員〉 中学校の統合の時期うんぬんの前に、中学校の統合の是非について、はっきりとした方向性を決めるべきである。まずは中学校統合の是非についての方向性を決め、自治会との協議を行いたい。
- 〈氏家会長〉 まずは、中学校統合の条件整備を議論しているところである。
- 〈山崎議長〉 分科会としては、「中学校を統合する」ということで合意してよいか。
- 〈笹川委員〉 南中としては、統合に賛成である。
- 〈千ヶ崎委員〉 西中としては、そこまでPTAに説明していないので、保留である。大事なことなので意見をまとめた上で西中の立場をはっきりさせたい。
- 〈山崎議長〉 中学校の統合については継続審議をしたい。統合時期や場所についても引き続き審議したいので、次回までに各団体の意見を確認してきてほしい。
- 〈菅原副会長〉 中学校を統合して一つにするには、もっとしっかり議論すべきである。本当に統合してよいか。
- 〈笹川委員〉 何について意見を聞いてくるのかをはっきり出してほしい。
- 〈栗山委員〉 中学校の統合をどうするのか、それに伴い、小学校の統合場所をどこにするのか等を各団体、はっきりさせて協議に臨むべきではないか。
- 〈山崎議長〉 南中の同意が得られたことは決まっている。西中は次回までに立場をはっきりさせてもらおう。それを基に、次回も継続協議としたい。
- 〈時松委員〉 次回は、今回のような協議の進め方ではなく、例えば「二小一中」にするなどと、まずは統合形態をはっきりさせないと議論が進まないのではないか。
- 〈氏家会長〉 次回の協議会では、具体的な統合案が協議できるように、ある程度のシミュレーションをはっきり持って臨んでほしい。
- 〈時松委員〉 先日、私の娘とともに御成台3丁目から旭小や南小まで実際に歩いてみた。3年生でも50分かかった。もし1年生が通学すると考えるとどうなるか。今回の協議会では、そのような話をしたかった。議論が前に進んでいない。
- 〈氏家会長〉 実際に通学路を歩いて、朝の子どもたちの登校の様子を見ているが、子どもたちの負担についても十分な裏付けを持って検討した上で、次回も分科会として行い、統合の具体的な組合せを考えながら協議していきたい。
- 〈山崎議長〉 統合のシミュレーションを考えているが、なかなか言葉にできずもどかしい。次回も分科会で継続協議としたい。

議題（2） 次回開催日時・場所

- 〈事務局〉 次回も分科会をもつということで、通常では2か月に一度のペースで協議会を開催しているが、学校保護者代表だけなので、意見集約も比較的短期間で可能かと思われる。西中が意見をまとめたり、各団体が具体的な統合の組合せ等を考えたりすることを考

慮した上で、11月19日（水）18：30から、場所は千城台公民館でいかがか。

〈大和久委員〉 19日は都合がつかない。

〈千ヶ崎委員〉 次回までに、PTA役員の中でじっくり話し合ってから、西中の意見をまとめたい。それにはある程度の時間が必要なので、今は日にちを決めることができない。

〈氏家会長〉 11月26日（水）に仮設定し、10月末までの各委員の状況を確認した上で、可能であれば26日に確定するというのでよい。

〈笹川委員〉 18：30からは厳しい。

〈事務局〉 本日も19：00に協議を開始したこともあり、今回は19：00開始でよいか。

〈一同〉 異議なし（了承）

（4）連絡

- ・本日の議事要旨（案）を作成し、委員の方々に郵送し確認していただく。期日までに回答がない場合は「修正なし」とさせていただきます。
- ・次回協議会を欠席する場合は、事務局へ電話連絡をお願いしたい。また、学校代表の意見を重視すべく少人数で行う分科会ということもあり、欠席者が出ると協議が成立しない場合もあるので、できる限り、都合がつかない時は代理を立てていただきたい。

（5）会長挨拶（氏家会長）

いよいよ具体的、本格的な議論が必要になってきた。「私の学校をなくしてよいのか」という具体的な話も含めて、みなさんは組織としての意見をまとめて次回の協議会に臨んでほしい。シビアな議論になると思うが、保護者代表の意見がまとまれば、自治会を含めた総合的な調整をする段階になる。地域の人たちにも統合案の実行性をしっかりと説明していくことを念頭に置いて、協議を進めていきたい。本日も遅くまで協議していただき、感謝申し上げます。